

2006 年 医療統計学実習コラム

4月11日

先週は火水と東京に出張していた。京都にくる前に勤めていた統計数理研究所(統数研)で客員教授をしているので、そのお勤め。とはいうものの主目的は「これからの臨床試験」の共編者の藤田先生が4月から統数研の教授になられたので、おなじく「これからの臨床試験」の共編者である椿先生(統数研のリスク解析戦略研究センター長を併任している)と統数研の北川所長と4人で食事をしようというもの。統数研は広尾にあるのだが、広尾には ENOTECA というワイン専門店(京都にも四条に支店がある)があり、そこが経営しているレストランを予約した。料理にワイン(白赤)飲み放題で7800円というコースがあったので、それにした。料理は帆立貝のサラダ、すみいかの Pasta、ハラミのステーキ、デザートといつもながらおいしかった。ワインはチリのワインといていたが、白はなかなか香りがよくおいしかったし、赤もけっこうだったのだが、4人で話しをしながら調子よく飲んでいたら飲みすぎ。ワインの二日酔いは辛いね。次の日はほとんど使い物にならず、「東京までわざわざ二日酔いになりに行った」かのようにであった。飲みすぎには注意しましょう。

4月18日

土曜日は先生の弟が訪ねてきたので、錦市場でお昼を食べ買い物をして東京に帰すことに。もちろんついでにうちの食材もゲット。このあいだのワインで二日酔いからワインづいてしまい、今晚は洋食でワインと決まっているので、今晚のおかずと明日のおかずも一緒に買ってしまおう。河一で小ぶりでもとてもいいたけのこ一山1000円をみつけたのでなくなる前に買ってしまおう。明日の晩御飯用に木の芽とともに買うと、弟も東京まで持って帰るといふ。たけのこを買ったので安心して権太路できつねうどんと季節のたけのこご飯を食べる。久しぶりで権太路さんにきたが、大満足。

さて本格的に錦でお買い物。津乃弥で若狭のあじの干物2枚、かます1枚、かれい3枚、このかれいがうまいんだ。明日はかれいの干物だね。おっと時期ものの赤腹も忘れずに一杯買っとこう。明日は竹の子ご飯だから井上でごま昆布、打田で水なすの漬物。なんだか明日のおかずばかり買っている。

大丸で弟と別れ、ベビーリーフ、バジル、ファーストトマト、パルメジャーノレッチャーノを買う。帰宅してたけのこをゆでながら、録画しておいた「レッスルマニア I-IX」を観る。なつかしや、ボブ・オートン Jr、ポーン・オードーフ、ハルク・ホーガンなど新日で活躍したレスラーたちが。すっかり満喫して晩御飯の準備にとりかかる。ベビーリーフをオリーブオイルで和え、塩、こしょう。トマトは1cmくらいにスライスして冷やしておく。パンを一口サイズに薄く切る。鴨ロースも薄くスライス。冷凍しておいたトマトソースを解凍しにんにくをたっぷり刻む。ワインを開けてさあ食事の開始。ワインのことはよくわからないが、この間のエノテカの通販で買った6本セットの中の赤ワインを1本開ける。ルビー色で、ちょっと若い感じだけれどおいしい。

ベビーリーフサラダにはバルサミコをかける。トマトにもオリーブオイルとバルサミコ。トーストしたパンはチーズと一緒に。あつ、妻がパンにオリーブオイルをつけて食べている。まねすると、これがうまい。ワインが進むね。鴨ロースにはたっぷりのマスタードをつけて。パスタをゆで、にんにくをオリーブオイルでじっくり炒めてトマトソースを合わせ、パスタを和えて、細く切ったバジルとすりおろしたパルメジャーノをたっぷりかけ、ワインとともに食べるとえもいわれぬ幸福が。とてもおいしかったが、ちょっと量が足りなかったか、妻が寝てから新じゃがでフライドポテトなどを作って食べてしまった。

日曜はもちろんたけのこ。穂先の部分は出汁でふくめ煮にし、下のほうはたけのこご飯。少し厚めに歯ごたえが出るように切ってみる。あげとたけのこをさっと炊いて、鍋でたけのこご飯を炊く。これは日本酒だよなあ。今日は秋田の「まんさくの花」。たっぷりの山椒を乗せてたけのこにかぶりつく。たけのこは栗のようなにおいがして、甘くておいしい。かれいもうまい。しかし、たけのこご飯にはかなわなかった。ぴかぴかして昨日の権太路のよりもうまいぞ。昨日のワインで洋食もよかったが、やっぱり炊き立てのご飯を食べてこそ愛国心が芽生えるのではないかな？

4月25日

土曜日はいい気候だったので、午後、妻と散歩に出かけた。うちは神宮道仁王門にあるので、神宮道をぶらぶら円山公園方面に向かう。(たぶん)ゲノム情報疫学 松田先生の新居の前を通過して、知恩院にでる。なんでも18日には「ミッドナイト念仏 in 知恩院」なる催し物(参拝者がひたすら南無阿弥陀仏を唱えるだけらしい)が開かれたようだが、誰がくるものか。円山公園で名残の桜をみる。と、池の横になにやら面妖な鳥が二羽。大きさはアヒルくらいだが、顔はオレンジ色や黒にそまり、七面鳥ほどではないがのどが垂れ下がっていて、なんじゃこりゃ、という鳥だった。どなたかこの鳥にお心当たりのある方はその正体を先生まで連絡されたし。

あまりへんなものに関わっている暇はないので、円山公園を一気に縦断し、お目当ての紅葉庵へ。ひさしぶりだが、ここのあずきは絶品。妻はあんみつ、先生は抹茶にあずき。うーんうまい。新緑とおやつを堪能したところで、円山公園から八坂神社を抜けて四条へ。君たちは八坂神社の中に小さな神社がたくさんあるのをしているだろうか。さらに、その中のひとつに疫学の神様を祭った「疫神社」というのがあるのをご存知か。なおかつ、その疫神社こそがかの祇園祭の中心となるお社であるとはまさか夢にも思うまい。疫学を勉強する身ならば、一度はお参りにいっておくとご利益があるかもしれない。

四条を西に向かい、高島屋、錦で晩のおかずを買い求める。今日は錦 津之喜で強力と能古見の純米吟醸を買う。結局また河一でたけのこを買う。明日は若竹煮だ。今晚は、焼き鳥、さばきずし、しまあじのたたき、小松菜とあげのたいたん、おにぎり(ごまこんぶとちりめん山椒)、これによなよなエールと強力を合わせればということなし。19時からPPVが受診できないトラブルがあったものの、食事はとてもおいしかった。

5月2日

4月29日に医療統計&CRCコース合同のお花見会を執り行った。こんな時期にお花見?と思うかもしれないが紛れもなく桜のお花見であり、とっておきのスポットがあるのだが、とっておきなので誰にも教えない。少々寒かったものの、桜も満開を少し過ぎ風が吹くとはらはらと舞い落ちる。昼から酒を飲み、平野のお惣菜セットと中央米穀のおにぎりなどを食べ、すっかりいい気持ちになったところで3時過ぎに2名が合流し総勢11名、ここからまた盛り上がった。大森先生のリコーダなども登場し。解散したのは5時半ごろ。長〜い宴会だった。

5月9日

みんなは連休をどう過ごしたのだろうか? 連休中はお天気もよく、絶好の行楽日和であったにも関わらず、先生たち(先生、大森先生、佐藤恵子先生)は仕事が溜まってにっちもさっちもいかず、毎日出勤と相成ったのだった。なぜか野間くんも研究室にきていたが、こちらはほかに行くところがないから、とのこと。でも先生が大学院生のときは、土日祝日関係なく(元日も)研究室にきて研究していたのでそれは当然。

おかげで仕事ははかどったが、まったく連休しないというのも悔しいので、せめて土曜日くらいはお弁当を持ってでかけることにした。以前、伏見に住んでいたとき、醍醐寺に遊びに行ったところ、山の上に「上醍醐」というのがあるというので、のこのことでかけていったが、予想外の登りのきつさに途中の「不動の滝」まで行ったものの顔を洗って出直してくることになった。今年はその復讐戦だ。弁当といっても1階のフランス惣菜店でランチボックスを買っていこうとコーヒーを持って10時半に出発。惣菜店がまだ開いてない。恵子先生、意を決して中にお姉さんに交渉するも、「11時からです」とけんもほろろ。あきらめて醍醐駅のスーパーでなにかゲットすることに。

東山から地下鉄で16分、醍醐にはすぐ着いた。けっこう大きなスーパーで品揃えも豊富。恵子先生はさげとたらこのおにぎり、先生は豆ご飯とたけのこご飯のおにぎり、ごぼうサラダ、からあげ、焼き鳥を買い出発。市営住宅を通り抜け醍醐寺へ。境内を通り抜けて行こうとすると参拝料を取られるという。上醍醐にいくだけなのにばからしいと横の迂回路へ。みなさんそうしていました。今回は不動の滝までは割りと楽にたどりつく。が、そこからがきつかった。恵子先生は唇に薄笑いを浮かべ、菩薩のような表情で外界とは無反応となりひたすら登り続ける。降りてくる人たちが「こんにちは」と声をかけるのだが、恵子先生薄笑いを返すのみ。かなり登って下りになった直後、向こうの峰にお堂と桜が1本。いいえ、あんなところまでいけません。でもここまで来て帰るわけにもいかず、いきましたよ。こんな時期に桜があったこと、つらい山道を登り通したこと、うす曇だったけど見晴らしがよかったこと、などなどでとてもおいしい食事だった。

下りでひざにきてしまった。右ひざに激痛が走る。恵子先生は復活して平気で下って行くも、追いつけない。必死の思いで降りてきたが、年は取りたくないものである。

久しぶりにいい運動して汗をかいたので、帰宅してひと風呂浴び、今晚はあさりの酒蒸し、

買ってきたごぼうサラダとジャーマンポテト、きゅうりと大根の千切りにわかめサラダ、あじの干物に青森の純米吟醸「杉玉」。やはり日本人たるもの、おいしい和食においしい日本酒が王道である。今日はいい運動をしたので酒と食事のうまさも格別。恵子先生曰く、あさりの酒蒸しはにんにく、しょうが、ねぎをたっぷり入れるとおいしいのだそうで、確かにうまい。問題はあさりのうまみを凝縮したエキスのような汁が残ってもったいないのだが、ふと思いついて冷凍してあるご飯をその汁に入れて解凍してみた。これが大当たり。あさり抜きをあさりピラフのようであった。

次の日起きると身体の節々が痛む。年は取りたくないものである。

5月16日

日曜日、休日にしては珍しく早く起きたので(といっても9時だが)散歩がてらお昼でも食べに行こうか、ということになった。先生は祇園 森幸のとってもおとくな中華弁当 1000円を提案したのだが、このところお昼というと森幸ばかりなので却下された。(しかし、あらたなお昼を開拓しようとする店行く店、結局「森幸のほうがよかった」という結果となり、森幸ばかりになっているのだが。)

佐藤恵子先生は大のハンバーグ好きで、しょっちゅうハンバーグ、ハンバーグと騒いでいるくらいで、ご多分に漏れずハンバーグが食べたいとのこと。どうもあてがあるわけではなさそうなので、「ハンバーグ 京都」で検索したところ、京都でハンバーグといえば「グリルはせがわ」なんだそうだ。北大路とちょっと遠いが食事の後は植物園にでも行くことにして、出かけることに。

先生もネットでグリルはせがわの情報を調べると、ハンバーグだけではなくエビフライもおいしいというではないか。じゃあ先生はエビフライにしよう。206系統のバスに乗ること30分、なぜか高野まで込んでしんどかったが、ようやく北大路バスターミナルに。予断であるが、京都の市バスはなぜあんなにマネジメントが悪いのだろうか。観光都市の名がすたると思っただがどうだろうか。

まず、後ろ乗り前降り料金後払いはなんとかならないものか。ちょっと込んでいると降りるのに人をかき分けかき分け前に進まねばならず、また立っていると後ろから人がものすごい勢いでぶつかってくるものだから困ってしまう。少なくとも料金均一区間については前乗り中降り料金前払いにすればだいぶ解決するはずである。また東京に比べてバスが小さいのか、運転が荒っぽくていけない。しょっちゅう前につんのめってがっくんがっくんしている。大気汚染対策としても重要な公共交通機関、改善してほしいものである。

グリルはせがわは大人気で満席。ちょっと待ったものの回転が速いのですぐ座れた。恵子先生はもちろんハンバーグ、先生はエビフライ。どちらも1000円で満足のお昼でした。はせがわはお弁当も売っており、こちらも大繁盛。天気の良い日ははせがわのお弁当を買って、河原か植物園で食事、というのもしゃれてていいかも。

満腹になったので、植物園を散策。だいぶ前に紅葉を見にきて以来久しぶりの植物園だ。

春なのでいろんな花が咲いていて、ちょっぴり怪しい甘い香りなどが漂ってきたりもする。残念ながらバラ園は少々早かった。今週末か来週くらいが見ごろだろう。以前コラムで「まんさくの花」という秋田の地酒を買ったと書いたが、その「まんさくの花」をはじめてみた。とても地味な花で、「きっと『地味だけど一所懸命作っています』という意味で名前をつけたんだろう」などとまったくエビデンスのない会話をする。北大路側から入って北山道り側までほぼ一周して帰る。

帰宅してから近所のマッサージにかかる。このところ凝りに凝っているのが痛かったが、途中気持ちよく、何度か意識を失う。いつか肩こりがなくなる日はくるのであろうか。パソコンが悪いことはわかっているのだが、パソコンなしでは仕事にならないのでこれまた困ったものである。

5月30日

医療統計学は英語で **Biostatistics** というのであるが、古くは **Biometrics** といっていた。その国際学会が **International Biometric Society** であり、2年に一度 **International Biometric Conference (IBC)** を開催している。今年は開催年にあたり、モントリオールのマギル大学で行われる。その次の2008年はアイルランドのダブリンで開催、なんとt検定誕生100周年記念だとのこと。(アイルランドとt検定の関係をしりたい人は「医療統計学I 実習コラム2002年7月2日」、「医療統計学実習コラム2003年6月17日」を参照。)

このIBC、北米、ヨーロッパ、それ以外の地域で順に持ち回り開催することになっており、そろそろ日本でも開催しようじゃないか、という機運が高まってきた。1984年に日本で一度開催しているのだが、そのときは東京だった、じゃあ今度は関西でやれ、となるのは必然であるが、日本支部の理事を見わたすと、あれっ、関西って先生しかいない。しかたないので、京都、大阪、神戸、奈良でコンベンション会社に見積もりを依頼したら、京都と大阪は高いのね。とても京都国際会館なんかで開催できるような規模の学会ではありませんでした。なんとか京都で開催したかったのだが、予算には勝てず、第一候補が神戸となった。2010年の開催国は7月のモントリオールのIBCで決まるのだが、さて、他の国は立候補しているかな。

6月6日

上の論文の著者、Greenland先生は今週金曜の疫学講義で用いる「疫学は限界に直面しているか」にも登場した、理論疫学の専門家であり、あの **Modern Epidemiology** の共著者でもある。先生には「医療統計の先生」にあたる人がいないのだが(独学なので)、Greenland先生の論文を読んで勉強したので、密かに師と仰ぐ先生である。92年に日米バイオ統計会議が開催され、Greenland先生にも日本にきていただいたのであるが、とても変わった方であった。ともかくどこに行くのもジーンズ。「カリフォルニアではこれが正装だ」とわけのわからないことをいっていた。当然、Tシャツの上に着ているジーンズのシャツはボタン全開なのだが、質問に立つ際には急いでボタンを掛けながらマイクに歩み寄る。一応、ボタン全開では失礼

だ、とは思っているようなのが逆に不思議であった。

Greenland 先生とは恵子先生も一緒に箱根へ一泊旅行にお連れした。山が好きだそうで、芦ノ湖の遊覧船からみえた富士山にいたく感動されていた。世界広しと言えども、Greenland 先生と二人きりで箱根の温泉に入ったのは先生だけであろう。また、アイスクリームが大好きという意外な一面もあり、ソフトクリームを食べさせたら、たいへん気に入られたらしく、もうひとつ食べるというので、ソフトクリームを2つ奢ってあげた。いま、医療統計の助手、千葉先生が Greenland 先生のところで在外研究をしている。

ちなみに先生の統計の先生はというと、先生が東大保健学科の疫学教室で大学院生だったときに、非常勤講師として統計を教えにきておられた柳井晴夫先生(今年、大学入試センターを退職され、今は聖路加看護大学、多変量解析の大家)がそうで、研究内容があまりにも違いすぎるため、統計関係者にもほとんど知られていない。一方、疫学の先生はというと、当時疫学教室で教授をしておられた前田和甫先生。前田先生は大気汚染の研究を長年され(それで先生も「そらプロジェクト」だ)東大を退官後、帝京大学に移られ、石崎先生はそのときの教え子。ということは、先生と石崎先生は、兄弟弟子ではないか。

6月13日

火曜日の夕方は毎週医療統計のゼミをしていて、つまり火曜は一日医療統計なのだが、毎月1度は拡大ゼミとして、医療統計 OB・OG、関西の製薬メーカー統計部門の人なども参加して Kyoto Biostatistics Seminar (通称 KBS)を開催している。KBS のあとはいつも飲み会で、場所は出町柳の〔紀州屋〕と決まっている。ここは酒も料理もおいしいので、すっかり常連となり、店長がいろいろと趣向を凝らしてくれるのだが、今度は鱧鍋とのこと。実は今日が KBS の日で、なんとも楽しみである。

6月20日

明治屋で安売りしていたイタリアの羊のチーズを買ってみた。これが意外においしかった。とくに焼いて食べると風味が増すので、日曜はなすとトマトのグラタン、というよりチーズ焼きか?、を作ってみた。なすを適当な厚さに切って、トマトはミニトマトを半分に。熱したフライパンにエキストラバージンオリーブオイルを敷きなすを炒める。普通は塩、胡椒をするのだが、今日はチーズを楽しむためチーズのみ。なすを皿にあげ、次にトマトをオリーブオイルで炒める。トマトもなすの上に盛り、チーズをたっぷり載せて 200 度のオーブンで 15 分。でもちょっと焼きが足りない感じだったので、さらにグリルで 3 分。おお、チーズがこんがり焼けていい感じ。ビールに最高の組み合わせだった。残念なことは、このチーズの名前がわからない。買ってきてすぐにラベルを捨ててしまったのが悔やまれる。

6月27日

昨年、引越しをするまで、5 年半藤森に住んでいた。住んでいたところの周りは、まあ普通

の住宅街なのでなんということもなかったが、近くには最近では勝馬で有名な、神功皇后が開いたという由緒正しい藤森神社があり、湧き水もあつたり、はたまた夜 10 時まででやっついて食糧庫がわりのスーパースマイル、カルト的な酒を置いている津之嘉、抹茶フリアンがおいしいアデリーヌ長栄堂、洋菓子パパクとお店も多彩でなかなか気に入っていた。藤森神社はまた、紫陽花の宮としても有名で、ちょうど季節なので家族会議でひさしぶりに藤森神社に行くことが決定し、日曜日雨の中を出かけていった。

まずは三条の山頭火で腹ごしらえ。開店当初と比べ最近はあまり待たなくても食べられるようになったのだが、この日は 10 分くらい待つ。塩ラーメンを食べまらず満足して京阪に。京阪で通っていたときは、藤森まであと一駅というところで、深草で急行と特急に抜かれるのがえらく頭にくるものだった。この日は運良く抜かれない電車だったので、ご機嫌で藤森到着。疎水べりを 10 分ほどぶらぶら歩き藤森神社着。こんな雨の日にお客さんはいないだろうと思っていたら、けっこうな人手。おやまあ雅な雅楽の演奏などをやっている。紫陽花苑の入場切符は毎年おなじみなので昨年を持ってくれば入れるのだが、今年はなんと切符の色が変わっており、せこいことをしないでよかった。雨の中なので色がきれいでなかなかよかった。恵子先生はかたつむりと遊んでいた。

帰り道、パパクでソフトクリームを食べ、藤森商店街にあるスマイルによって、ひさしぶりに丁子屋の寄席豆腐、なまわかめ、ボローニャの D 食を買い、なんとまあ三次ワイン牛乳ヨーグルトがあつたので 8 個買い占める。このヨーグルトがうまいんだ。残念だったのは、お目当てだった丹波の黒鶏がなかったことだが、ヨーグルトが買えたので満足して帰路に着く。この近所のスーパーにも藤森スマイルの品揃えをみならってほしいものである。(あえて実名は伏せるが、サンプラザ、ジャスコ、フレスコはみならうように。)

7 月 4 日

実習もはや発表会を残すところとなった。みなさんご苦労様でした。今年は、7 月 16 日から 21 日まで、モントリオールで国際計量生物学会がある関係で、講義も来週で終わりである。あとは心置きなく医療統計のレポートに専念していただきたい。

諸君は好きな弁当、というものはあるだろうか。ここで「日本三大弁当」を発表したい。するなといわれてもする。栄えある最高峰は「**九尾の釜飯**」である。先生の田舎は秋田なのだが、かつて先生が子供の頃は、上野から奥羽本線の夜行急行「男鹿」に乗り、12 時間かかって秋田まで行ったものだった。急行は「黒磯」には停車しないのだが、乗降はできないにもかかわらず、わざわざ黒磯に停車して駅弁を買わせたのである。その黒磯駅の名物が九尾の釜飯。この九尾の釜飯はほんとうにうまかったが、今でもあるのだろうか。まあ「九尾の釜飯」は理想の弁当としておいて、1 位から 3 位を選ぶことにしよう。第 3 位は〔大分吉野鶏めし保存会〕の「鶏めし」である。先生は毎年大分大学に講義にいっているのだが、帰りの昼飯はいつも鶏めしである。大分駅の売店でさりげなく売っており、おにぎりタイプとご飯タイプがあるが、味は一緒でお値段もとてもお得である。さて、第 2 位は…